



▷ 審査風景

ご挨拶

審査を終えて

理事長 真鍋井蛙

会員の皆さまにおかれましては如何お過ごしでしょうか。このニュースレターが、例年通りの活動が再開されるまで、協会の動きのお知らせや、皆さまの篆刻活動の一助にと発行されたのは二〇二〇年六月でした。早くも三年が経ちます。その間協会の行事も形を変えながらも前に進んでまいりました。

さて、令和四年の活動としては一月九日の総会に続き、三月二十七日には第三十八回日本篆刻展審査が兵庫県立美術館王子分館で行われました。全国から質の高い作品が沢山応募されており、協会の今後に期待すると共に、会員の皆さまが真に篆刻を楽しんでいただけるよう努力してまいります。加えて会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

● 審査員

理事長 真鍋井蛙 (審査委員長)

常任顧問 井谷五雲 山下方亭

会長 尾崎蒼石

副理事長 喜多芳邑 酒屋石荘 小朴圃 中島春緑 平田蘭石

顧問 多田龍淵

代表理事 伊藤雅夫 黒田玉洲 黄平齋 渡邊和琴

常務理事 大村雪陵 草田翠苑 熊本夕生 長谷川拓石

■ 顧問賞・会長賞選考委員

常任顧問・会長・理事長・顧問 五名

■ 梅舒適賞選考委員

常任顧問・会長・理事長・副理事長 九名

■ 大賞選考委員 (大賞・準大賞・優秀賞)

常任顧問・会長 理事長・副理事長・代表理事 十三名

■ 学生展選考委員

理事長・常務理事 五名

常任顧問 井谷五雲



▷平田蘭石先生

に出かけた。そのついでではないのだが、足を延ばして「関中印社」の代表である平田蘭石副理事長にお会いしてきた。少しその様子を皆さんに紹介したいと思う。

平田先生とお会いするのは二年ぶりであろうか、随分久しぶりのように思う。それは何もコロナ禍の影響ばかりではないようだ。先生は開口一番「昨今は高齢化が激しく、篆刻に情熱を燃やす人材に乏しく、印社の維持が大変である」とおっしゃった。古参の門人とともに自分も年齢を重ねていくことを嘆いておられたが、心配していたよりは、随分お元気な様子で一安心であった。そして書棚の篆刻関係の資料を見やりながら、梅舒適先生との思い出話などに花が咲き、短くはあったが楽しい時間を過ごして先生宅を辞した。

次に平田先生の門人で、我が協会の理事である後藤黄太郎さんが館長を務める「後藤昭夫藝術館」へ行った。かねてより約束していたので後藤さんが出迎えて下さって、これもまた旧交を温めるように挨拶を交わし、館内を案内していただいた。後藤さんは関氏の市役所を定年退職されてから、お父さんの昭夫氏の作品を展示するための美術館をご自宅のすぐそばに建築なさって、企画展を定期的に開催されているとのことであった。お父さんの昭夫さんは知る者ぞ知る前衛画家で、今回は「師坪内節太郎と行動美術時代」というテーマの企画展の開催中であった。お父さんの作品やその他関係資料の説明を受け、楽しく有意義に時間を過ごさせていただいた。この美術館そのものが贅沢な平屋作りで、現代的でありクラシック。和と洋の調和が実に見事で、参観に訪れた者を驚か

すものであった。今回は五月二十七日から円空仏写真家の「後藤英夫と後藤昭夫」展の開催とか。

円空上人は寛永九年（一六三二）美濃の国に生まれ、元禄八年（二六九五）年に関市の弥勒寺で入滅する。時に六十四歳であったが、その生涯は謎に包まれている。関市洞戸円空記念館のパンフレットには「わかっているのはノミとカタナを手に全国を行脚し、過酷な封建社会に苦しむ民衆に仏の教えを説きながら、およそ十二万體にも及ぶ仏像を彫り続けてきたことだけ」と書かれているが、その迫力と慈愛に満ちた円空仏は我々の心に等しく迫ってくるところで、知らぬ者はなかるう。洞戸円空記念館は関市洞戸の高賀神社にあるということであらう。関市の平田先生のお家や後藤昭夫藝術館のある所からは北西？へ向かって約一時間ほど車を走らせたところにある。まだ春の訪れを感じるには早いこの時期ではあるが、積雪が道路の傍らに積んであったのが印象的であった。少しく時間を要したが、山深い佇まいと円空仏の魅力にしばし現生を忘れるような心持ちに、来てよかつたとしみじみ思えた。円空仏は（かつて平田先生に案内していただいた）関中印社の本部近く、関市の弥勒寺にも大小数多くの円空仏が展示されている。

さて今日は、美術や深い信仰や歴史や床しい自然の中に、篆刻を志す同志の友情が存在することを再確認することができた。関中印社の存在を嬉しく思うこと一入であった。本協会の皆さんも是非とも関市を訪れ、合わせて篆刻仲間との交友を深めて欲しいものだと思う。関中印社の今後の活動を期待して拙い報告文を閉じたい。



▷円空仏「虚空蔵菩薩像」
後藤昭夫藝術館（後藤黄太郎さんと筆者）▽



「工具書」 《字書》 について (二)

副理事長 喜多芳邑

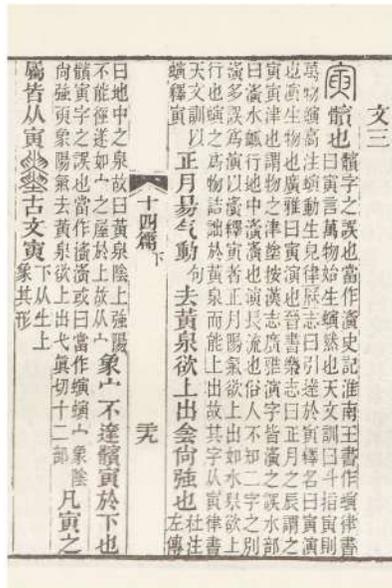
先般、日本篆刻展の審査の際、「こんな字書もあるで。」「うちの会員は1000円弱で『印文学』買いましたよ。」「スマホの字書のアイコン作ってくれ。」「〇〇、ネットで探したけどえらい高くなっているな。」等々、まずまずの反響で、多くの皆さんが字書について再考する機会となったことは、ある一定の役割は果たしたと思っている。「それでどの字書がいいのか?」「絶版で手に入りません。」などの声も聞こえてくる。この字書さえあればいい、これは絶対必要などと断定は出来かねる。少なくとも一冊ではなく、他に検字する手立てを持っていることが肝要である。

昔のように次々と字書が出版された時代とは違い、需要が減り、書道関係の出版物も各社減少している。入手することが困難になったとは言え、古書店をうろうろしなくても、ネット通販により購入することが可能になったことは、良くも悪くも時代と言えるでしょう。

① 大学で『説文解字注』の購読の授業を受けた時のテキストである。清の段玉裁が著した『説文解字注』は、説文解字に対する注釈の最高峰と言われ、清の訓詁学の到達した一つの頂点として知られている。漢字を部首五四〇に分けて体系付け、その成り立ちを解説し、字の本義を記している。漢字の字書の基本ではあるが、すぐに印の作成に利用できる字書とはいえないまでも知っておくべきものではある。現在の多くの字書が康

熙字典の配列に準じているが、部首五四〇を書した西泠印社発行の『王福庵書說文部目』が部屋の片隅にあったので、思わず採り上げた次第である。

① 『説文解字注(段注本)』 藝文印書館 B5判



『王福庵書說文部目』



② 『清人篆隸字彙』 北川博邦編 雄山閣 B5判

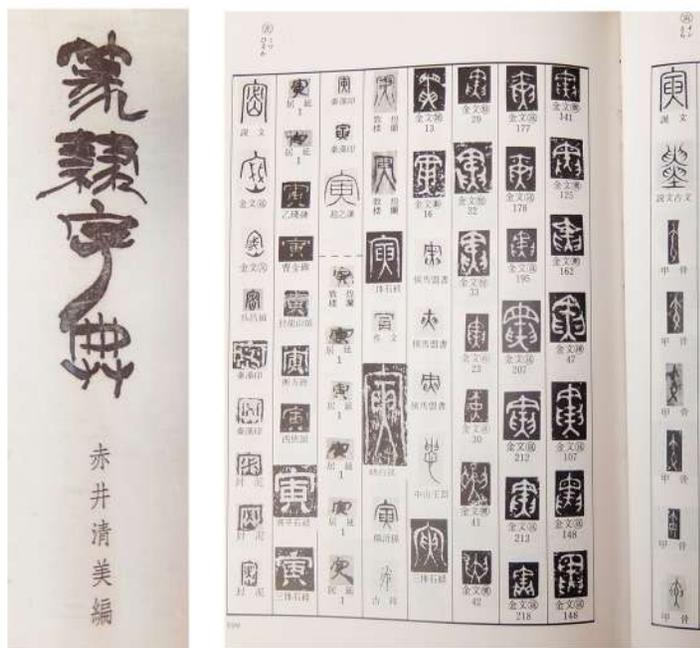


② 『清人篆隸字彙』は昭和五十四年に発行され、篆隸作品を作るのにこんな便利な字書はないと思いき購入。初版であり音訓索引はないが重宝した。説文より始まり、清代名家の書作より掲載されている。各作家の書作と篆刻は、共通し、反映し、相互作用することを学び、また呉大澂による金文も参考となった。楊峴や呉昌碩を集字し書いていたのを思い出す。多くの清代作家群を知るきっかけとなった一冊である。普及版もあるが、私は床で広げて重いこの本を見るのが好きであった。行草も合わせた『呉昌碩書法字典』や呉昌碩の篆刻のみの字書も、若い頃購入していた。自身の作品に取り入れるには必要であると思っていたが、生かされていたかどうかはわからない。

③ 『篆隸字典』昭和六十年発行。切り貼りの作業による労作である。甲骨、鐘鼎彝器、漢碑、木簡、古璽、秦漢印、封泥、清代の趙之謙や呉昌碩まで数種

載っている。拓のまま載っているのがいい。『行草字典』とともに愛用していた。平成二十年に前記二冊を増訂し『篆隸大字典』『行草大字典』が出版されている。

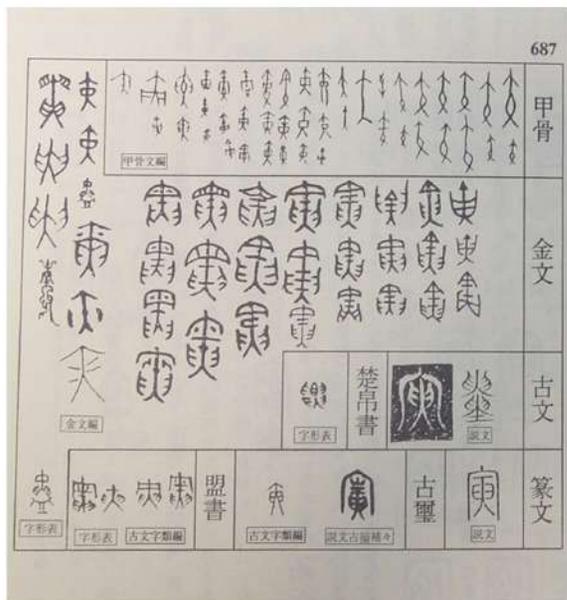
③『篆隸字典』 赤井清美編 B5判



④『甲骨金文辞典』平成七年発行。総合辞典としてよく出来ている。偶数頁に「解説」、「字形」、「字義」、「参考」など、漢字の語源と成立を明らかにし、奇数頁に図版を収録し、甲骨、金文等を発生順に並べて小篆と対比させている。少々高価だが『字統』とともに金文を扱うときの助けとなっている。『甲骨文編』、『古文字類編』、『漢語古文字字形表』など十七種の字書から選録している。「この書籍ではこの字をこのように分類している」など諸説を示し

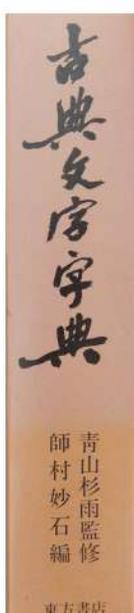
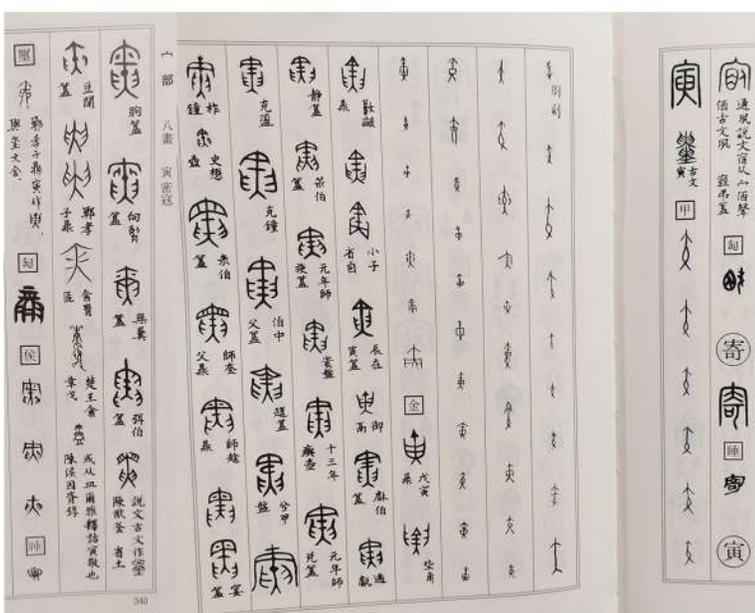
ている。現在、雄山閣は、受注生産のPOD版（プリントオンデマンド）としているようだ。

④『甲骨金文辞典』上下巻 水上静夫著 雄山閣 A5版



⑤『古典文字字典』は徐文鏡編『古籀彙編』に倣い、新資料を加える。見出し字も三千を超え、確かに多く掲載されている。『甲骨文編』、『金文編』、『古璽文編』、『匊文編』、『貨幣、侯馬盟、帛書等』が載せられている。少し手を加え、各字書からの綺麗な転写がなされている。普及版もあるようだ。

⑤『古典文字字典』 青山杉雨監修 師村妙石編 東方書店 B5判



今回掲載した日本の字書は、音訓索引もあり、甲骨金文など検索し易い。私自身は、常時使用している訳ではなく、必要に応じて棚より引っ張り出し使っている。既にお持ちの方もおられるだろうし、皆さんの参考になるかどうかは疑問である。文中の『古籀彙編』、『甲骨文編』、『金文編』、『古璽文編』、『古文字類編』、『漢語古文字字形表』等々は、また次回紹介したい。

8月課題 「無恙」

役員
(多田龍淵選)



青雅



恵草



仁美



青露



宗里

今回は二文字であり、比較的取り組みやすい課題であったが、二文字のバランスがうまく取れていない作品が多く見られた。印稿の段階で、文字の選別を吟味し、さらに文字構成を工夫することが必要である。

常任委員
(松本雅至選)



嘉雨



悦治



昌子



黎秀



極浦

篆書では「恙」の上部は「羊」であり、縦画が下方へ突き出す形が本来正しいものと思いますが、出ていないものが多いのが見られました。また、やはり鈴印が悪いものが数点あります。印泥のつけ方については細心の注意を払っていきましょう。

委員
(池田泥異選)



恵理子



勝山



浩二



啓志



壽石

中国にて書・画・篆刻の指導を受け指されたのが「線」要自然、厚重。線質が生命を生みます。これは練習ではなく意識。

会員
(井後雅堂選)



草心



美香



幽堂



哲幸



朴園

二字とも左右対象に近い文字なので単調になりやすく、苦勞の跡が見られましたが、変化をつけようとするのは良い方法とありますが、良い方法とは言えません。押印が薄い物も目立ちました。印紙を用いて二度押しする練習をしましょう。

9月課題 「寧作我」

役員
(中島春緑選)



碧風



青雅



燕安



翠葉



容甫

三字語句はもうしても二字の方が大々たるので全体の調和が大切である。また上手な人は余白の生かし方がうまい。余白も作品の一部である。また、印影を見ると印影の付きが不足した作品が多く、鈴印まで制作の一部で最後まで気を抜かず注意が必要である。

常任委員
(石原豊玉選)



極浦



芳翠



秋鹿



桐華



貴美子

三字句、どの行一文字にするか？(寧)が大半でした。印象調の作品に秀作が多かったです。金文、篆印(古體)はもう少し勉強の必要あり。全体に勉強の処理ひと工夫か？明・清の大家の作品を参考に勉強して下さい。

委員
(出田瑠霞選)



勝山



管玉



寛明



正義



蒼樹

作品の最終仕上げである押印に注意を払ってほしいと思いましたが、特に白文印で印泥の少ないものが数多く見られ残念でした。今回は三文字印で、左右に入れる文字数が違うので、左右行のバランスがよくない作品も多かったように思いました。

会員
(大村雪陵選)



真咲美



龍泉



青榴



淳



君代

比較的布字易く、取まりの良い文であり、画数や粗密から定石通り「寧」を二文字とした方々の作品がほとんどで長方形や丸型も無い中、あえて「我」を一文字にする難題への取り組みが数点、奇にながらちではあります。チャレンジに拍手。

10月課題 「學書須得趣」

役員
(平田蘭石選)



板洲



耕碩



秀風



容庸



井泉

○谷板洲 名倉克彦
○堀口耕碩 北畑謙之
○津田秀風 安井芳泉
○木村容庸 浅野江准
○山崎井泉 片畑仁美
○古瀬章石 内田真弓
○宮越素翠 大槻彦高
○山越素翠 計四九人
○山村千秋

今回は三行にした場合、学を伸ばすが、無難に思うが、子の脚の処理に気になるものが数点あった。

常任委員
(奥田農生選)



戯石



悦治



黎秀



黄瑞



五岳

○岡崎戯石 高橋忠義
○兼子悦治 山口藤華
○武田黎秀 井上秋鹿
○堤黄瑞 田中紅珠
○小松五岳 白幡雪峰
○尾畑黎秀 永井恵子
○池田照影 木村行石
○西岡真子 田辺碧水
○池谷玄樹 計三二人

五文字の印文。三行にして学を伸ばし一字にしたものが無理がなく纏まりがよかった。印文の間違いで、得を徳、趣を機としたものがあつたが、印文をよく見ると、印文の意味を理解してから作業に入ることが大切ですね。

委員
(梶川久美子選)



勝山



啓志



卿雲



智子



翠庵

○大野勝山 藤田紅霞
○高木啓志 大塚秋露
○大野卿雲 田邊進
○山本智子 池田敬花
○尾畑黎秀 山中徹人
○木村行石 松村信夫
○岡本浩二 浦田紫雲
○服部和彦 計三九人

今月の課題は五文字で比較的画数が多い文字のため、無理な印稿による誤字、誤魔化しがみられましたが、どの辺りに無理があるかを考え、安定した配字になるようにしたいものです。もう少し印稿に時間を割いては如何でしょうか。

会員
(北室南苑選)



勝竹



小舟



松露



武



哲幸

○広森勝竹 井形淳
○貴島小舟 浜戸三徳
○北出松露 高橋子路
○小出武 伊藤光彦
○吉田哲幸 松島青福
○岩本凌樹 佐野咲美
○林正樹 計三六人

五字を三行に布字構成したものが大半であった。その中で「二・二と中央を一字の構成については、中央の一字によって左右二行を分断したような仕上げになった作が目立ちます。もう少し印稿において少々残念な気がしました。

11月課題 「獨醉」

役員
(真鍋井蛙選)



知了



華紅



仁美



惠草



燕安

○寺田知了 平中慶舟
○福谷華紅 安井芳泉
○片畑仁美 高野弘深
○鈴木惠草 橋本游月
○古野燕安 浅野道男
○山吹緑 津田秀風
○木村容庸 田原真山
○浅野祥雲 計五八人

二字の課題の為か筆渡を追従したものの、近代印人の呉昌碩・齊白石に仿つたもの等パラエティに富んでおりました。ただ小篆系の文字で「獨」字を「獨」にしたがやはり大部は必要でしょう。

常任委員
(草田翠苑選)



五岳



戯石



竹扇



芳翠



貴美子

○小松五岳 伊谷昌子
○岡崎戯石 武田黎秀
○福垣竹扇 金井福華
○向畑芳翠 杉山美華
○西岡貴美子 井畑高南
○中井梨子 高橋芳清
○藤井翠苑 池谷玄樹
○藤井翠苑 計三八人

「バランス感覚」これは全てに通ずるものです。その時々々にいかん方寸の中に上手く表現出来るか。字形・余白等、難しいものです。残念なことに、粉らわしい文字、押印で失敗した作品が数点ありました。

委員
(熊本夕生選)



良孝



菅玉



蒼樹



勝山



恵理子

○相川良孝 岡本浩二
○中本菅玉 藤田龍
○大林喜樹 浦田杏芽
○大野勝山 浦田紫雲
○傍田恵理子 服部和彦
○池田敬花 神純雅
○木村行石 中島幸園
○香川公子 計四四人

二文字の調和をどのに苦勞されたようですね。上下を空けすぎたり、足長になりすぎたり、といった作品が目につきました。先人の作品をよく鑑賞し、参考にしたいものです。

会員
(田中修文選)



草心



晶石



孝志



武



真咲美

○吉田草心 北出松露
○眞品石 遠藤幽堂
○亀田孝志 大宮多恵子
○小出武 松本峰舟
○佐野真咲美 池内龍泉
○吉田哲幸 岩本凌樹
○藤田泰山 計四四人
○指輪桂舟

「獨醉」の犬偏と旁の卒に誤字が多々目受けられました。字書に載っていないから大丈夫と思つて、他の字書も参考にされ字例が少ない字は避けた方が無難です。

12月課題 「壬寅」

役員
(伊藤雅夫選)



誠



正歩



青雅



緑



碧風

課題の「壬寅」は甲寅文、
金文とも字例が豊富で朝
作力が刺激されたことを
感じました。特に上位に
選んだ作品は、全体よく
融和していて、それぞれ
に味わい深く、工夫が見
られました。

常任委員
(堤白遊選)



秋鹿



唯文



昌子



五岳



黎秀

壬と寅の画数の違いを考
え輪郭と印文の大きさに
工夫が見られる。各々の
寅のあつかいと余白の生
かし方で作品の印象が随
分違って感じられる。金
石文字を用いた作品も多
くみられた。切れ味の良
い線質と構成の妙が作品
を左右する。

委員
(戸出九慮選)



公子



寛明



幸岡



浩二



智子

金文、小篆、印篆をそれ
ぞれの書体で構成され、
半通印や丸印、楕円形な
どの変形印が四割を超え
ており、干支の字形を合
わせて刻したのももあり、
バラエティ豊かな
出品となりました。

会員
(中村葉舟選)



草心



小舟



学



泰山



真咲美

「壬」字を「王」「玉」に
刻しているものが、数点
ありました。横画の位置、
長さ、型に注意が必要で
す。丁寧に正確に検字し
ましょう。

1月課題 「大吉祥」

役員
(黒田玉洲選)



道男



青雅



燕安



容庸



六朗

役員クラスは流石に刀法
は安定し、刀痕鮮やかな
作品が多かった。三字を
円、楕、長形等に工夫な
く配置した作品が多く、残
念、変形の印は難め易い
が、今回の課題の様の方
形に三字を配置する意図
が、今更にはっきりと思
う。しほしほと思う。

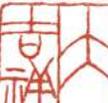
常任委員
(長谷川帰海選)



幸恵



喜雨



浩二



戴石



紅珠

馴染みのある印文なので
色々勉強の跡が伺えて作
品として良かった。しかし
白文全体に章法はよいが、
その中にムラやケバで印影
が綺麗に見えず、残念な
印も数点ありました。私
には印章を基調とした印
の方が安心出来ました。

委員
(長谷川拓石選)



恵理子



紫斐



幸岡



千博



智子

白文に良い印が多数有り、
皆さんが甲寅・金文等幅
広く勉強され、魅力的な
印を作られていましたが、
その中にムラやケバで印影
が綺麗に見えず、残念な
印も数点ありました。私
には印章を基調とした印
の方が安心出来ました。

会員
(東尾高岳選)



真咲美



蘇晨



泰山



真紀子



恵子

二字「大吉」(十一字「祥」)
の布字が多くみられまし
たが、祥字下部の余白が
多すぎたり、間が延びた
のが残念でした。長方形
に三字を配したものに佳
作が多くありました。

第三十八回日本篆刻展入賞者

日本篆刻家協会顧問賞(参与) 浅野祥雲

日本篆刻家協会会長賞(参与) 松本弘碩

梅舒適賞(評議員) 庭田露舟 石川無外 花房浩佳

日本篆刻展大賞(常任委員) 東縁園

日本篆刻展準大賞(常任委員) 岡本浩二 金井榴華 西川滄華 井畑喜雨

日本篆刻展優秀賞(常任委員) 古田衛 中嶋清華 岡崎戯石 榎本翠峰 永田乾石

井分潭風 斎藤芳清 松田仰風 平尾蒼龍 三原大

兵庫県芸術文化協会賞(委員) 明石精

神戸新聞社賞(委員) 池田叡花

日本篆刻展奨励賞(委員)

橋本陽一 大芦卿雲 田邊進 浦田紫雲 岡津美香 檜原邨 加藤輝雄

中出千恵美 吉永小依 渡邊幽石 服部和彦 中江萌翠 山本杏華

井手鈞雲 上島泉水 川端不條 北野京子 佐々木芍苑 村上抱華

茂中寛明 森俊治 壹岐玲風 池内紅月 池内龍泉 田中滋 本間まゆみ

松本矢岳 藪下瑛琴 寺地寿和 木下寛石 木村佳史 三宅溪月 平田六橋

知事賞(会員) 安藤慎一

兵庫県教育委員会賞(会員) 青戸佑華

神戸市長賞(会員) 藤井郁子

神戸市教育委員会賞(会員) 杉本加世

特選(会員)

山崎真美子 李海 枝廣樹芳 澤田弘 井上裕美 北出松露 高取珠光

山本博信 岩本凌慶 古谷介佛 久下浩登 中村祥水 吉田裕子

秋吉隆夫 亀田孝志 國重探龍 庄田真紀子 松井壹邨 井上暁子

古賀巳子 安田めぐみ

秀作賞(会員)

井形淳 岡野勝雄 松本猷 五十里厚子 松田呉川 耳浦康真 村田昇治
安田呉穂 山下忠洋 分野蓮淵 高木夜宵 石神理柳 近藤七峰

佐野真咲美 村田恵紅 安井英穂 赤松康照 荒木素世 株田星邨

清村天音 吉田哲幸 安達卿仙 川土居松苑 園田英雄 寺西章江

中村幸恵 西浦佳風 迫梅盒 松浦昌子 足立翠香 大喜多恵子

龜野連華 國本学 指輪桂舟 塔本大道 原琴名 御手洗義光

縦山美由紀 矢羽野徹也 山田温子 米澤春園 渡部雪華 大谷佳代

古賀俊一郎 曾根崎直子 永田佳子 前川舞 松崎敏子

原田の森ギャラリー館長賞(公募) 常常

会員推薦賞(公募)

柴田聖風 高山掃隅 陳燕 加藤蘭溪 王翊瀚 大島庸仁 黒川元伸

白多麗娜 申艶 蘇科 高原龍一 趙軍 張笑銘 屠龍 登坂仁美

潘桂芳 馬士強 毛夜明 川王芳 俞鷺敏 楊玉婷 李彦君 林立之

渋谷繁夫 梅原泰世 北村平周 青野虹華 桔梗美朋 木村真翠

津守笙人 護邦忠弘 赤木朋宏 石川湊尹 岸艸城 池田紅玉 松田響

中島裕子 前川恵理奈 森田典子 柳田佳代 西村奇秀

▼第6回学生展審査結果報告

最優秀賞 植田大芽

優秀賞 成田晴葉 滝本瀬奈 前田ゆず 水谷心咲都 西岡みふゆ

入選 小林里菜子 安藤瞳 半田輝莉 藤本明日香 松田薫野

遠藤依緒里 尾崎匠 西畑秋甫 石黒慎也 五由出紗妃

飯田梨紗子 中村こゆき 角倉さくら 田岡由起子 大本なつみ

西村香凜 丸山美結 白石彩夏 岡風希 細井咲来

■展覧会のご案内

明分篆會展二〇二二 八月五日(金)〜七日(日) 神戸元町みなせ画廊

第四十回六轡會與鯉鱗展 八月十七日(水)〜二十一日(日) 京都文化博物館

第三十七回 随風會書法篆刻展 八月二十三日(火)〜二十八日(日) 京都市京セラ美術館

第十四回 長修會展 八月二十六日(金)〜二十八日(日) 半田市福祉文化会館(雁宿ホール) 講堂

※本年度の社中展等、開催予定がございましたら事務所までご連絡ください